

## いわき農林事務所ニュース 2005年3月号

### 活動状況

#### ○環境と農作物を考える 園芸特産・廃プラ 合同研修会が開催される

2月17日、園芸特産作物生産技術向上研修会が、いわき市総合保健福祉センターで開催され、市内の農業者や消費者、JA関係者など約70名が参加しました。

まず、農林中金総合研究所 蔦谷栄一さんから「今、何故、環境保全型農業か」と題して、次に、県双葉農業改良普及所の酒井主幹から「有機栽培・特別栽培の現地実証」について講演が行われました。

会場では、なし・トマト・いちごで環境に配慮した栽培を行っている生産者の取組状況が紹介され、地元のエコファーマーが栽培したいちごの試食も行われました。

参加者は、生産者との交流を通じて栽培や販売の工夫について理解を深めていました。

引き続き行われた「いわき地方農業用使用済プラスチック適正処理推進研修会」では、日の丸合成樹脂工業株式会社福島支店の阿部智宏さんから「農業用使用済プラスチック処理の現状と技術」と題して、プラスチックのリサイクル方法や工程、リサイクル化の重要性などについて講演が行われました。

会場には、いわき地方の農作物に関するパネルやフェロモントラップ等の環境にやさしい農薬、使用済プラスチックから再生品化された資材などが展示されました。

今回の研修会は、「環境に配慮した農業」という共通のテーマから合同で開催され、環境に配慮した農作物生産の重要性と使用済農業用プラスチックの処理の方法・現状などに理解を深めていました。



会場ではエコファーマーが栽培したいちごやトマトが展示され生産者との交流を深めた



「環境に配慮した農業」をPR

#### ○「ゲームで経営感覚を磨こう！」第3回いわき地域農業経営セミナーが開催される

2月21日・22日の2日間、市内の青年農業者、アグリビジネス実践者など21名が参加して、第3回いわき地域農業経営セミナーを開催しました。

今回は「マネジメントゲームで経営感覚を磨こう!」と題して、(株)はらき総合会計事務所(会津若松市)代表取締役の原木昇さんを講師に迎えて行われました。

セミナーでは、専門知識がなくてもできる会社経営シミュレーション・ゲームを実施し、一人一人が社長になって、資金繰りや生産、入札などのマネージメントを机上で体験しました。

参加者は、ゲームを楽しみながらも、売上げの増減に一喜一憂したり、コストの低減や販売戦略、在庫管理などを総合的に体感していました。

また、入札の駆け引きや投資、思わぬ事故など、経営の難しさや日頃の伝票管理の大切さなどを実感していました。

最後にゲームの成績により最優秀者となった青年クラブの箱崎寿正さんが表彰され、原木先生から参加者へ「今後、何か一つでも行動や考えが変われば」とアドバイスをいただきました。



入札や会計などのマネージメントを体験



生産販売の管理を行う「会社盤」

## トピックス

○地域おこしの環境と条件とは・・・ グリーン・ツーリズム実践活動研修会が開催される

2月3日、いわき地方グリーン・ツーリズム推進会議(緑川幸雄会長)主催の「グリーン・ツーリズム実践活動研修会」が県いわき合同庁舎会議室で開催され、市内の実践団体や住民など、51名の方々が参加しました。

事例紹介では、いわき市遠野オートキャンプ場の活動状況を所長の牧野豊さんから、もりの案内人の取り組みを会長の永田壮三さんから、それぞれ紹介していただきました。

引き続き、県地域興しマイスターで、ヴィラ・イナワシロ企画室長の小椋唯一さんによる「グリーン・ツーリズムで地域おこし その7つの条件」と題する講演が行われました。

国土交通省の観光カリスマにも選ばれている小椋さんは、観光客のニーズの分析や地元の観光資源の整理の必要性、人を中心とした地域づくり、インターネットの活用方法など、実践に基づく集客・誘客のポイントをわかりやすく説明していただきました。

参加者の中には「今日の話をもとに宿泊施設の開業に役立てたい」という人や、「早速、あの方法でインターネットで情報を発信したい」と発言する人もおり、小椋さんの話に熱心に聞き入っていました。



講演で説明する小椋さん

## ○たい肥の利活用をPR 畜産講演会が開催される

2月22日、いわき市総合福祉センターにおいて、いわき家畜衛生推進協議会主催による畜産講演会が開催され、県内各地で堆肥を生産している畜産農家をはじめ、関係機関・団体などから54名が出席しました。

(独)畜産草地研究所家畜生産管理部乳牛飼養研究室長の塩谷繁さんから「イネのホールクロップサイレージ活用技術について」と題して講演が行われました。

続いて、県農林水産部循環型農業グループの遠藤主査が「家畜排せつ物等の有効性資源を利用した資源循環型農業の推進」について説明を行い、家畜排せつ物の適切な管理と堆肥の有効活用、持続性の高い農業生産方式の確立を訴えました。

受講者は、環境と調和しながら持続的に発展する畜産経営の確立と循環型社会の実現を目指し、有機質資源としての堆肥の有効活用について理解を深めました。



## ○林業技術の向上を目指して！ 林業コンクールが開催される

いわき市森林組合では、森林組合員の林業技術の向上と林業経営の改善を図り、地域林業を振興するため、昭和62年度から毎年、林業コンクールを実施しています。

18回目を迎える今年度は造林技術、枝打ち技術、間伐技術の3部門に11人が参加しました。

2月17日に審査会が開催され、造林技術部門では磐城造林株式会社 代表取締役 小野好郎さんが、枝打ち技術部門では室井重与さんが、間伐技術部門では蛭田一さんが、それぞれ最優秀賞（いわき市長賞）を受賞しました。

枝打ち部門で受賞した室井さんは80歳。梯子を使う夫婦共同作業で、4mの高さまで丁寧に枝打ちを行い、満点での受賞となりました。

受賞者は2月28日に開催されたいわき市森林組合通常総代会の席上で表彰されました。なお、最優秀賞の受賞者は平成17年度福島県林業コンクールに推薦されます。



枝打ち部門で満点を獲得した  
室井さんのヒノキ林

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]